

# 平成14年度事業報告及び収支決算書 概要

**1.平成14年度事業報告** 今年度の入館者数はいよいよ9万人代を割り、8万人代に落ち込んだ。最高入館者数を記録した平成4年度と比べると約半分の人数である。従って今年度の財政状況は、自助努力で前年度より単年度借入額を圧縮したが、予想以上に入館料収入の大幅な減少などにより逼迫した状況となった。事業は例年同様、保存管理・展示・普及教育・調査研究の4本柱で実施した。展示事業では、絵画・彫刻・工芸・書跡・写真・歴史・民俗など様々な分野を扱った特別企画展11、館利用団体グループ展6、合計19の展覧会を開催した。4月から11月の特別企画展の1日平均入場者数304人であった。特に人気作家・小杉小二郎の独特の構図と色彩による作品や日本を代表するフォトジャーナリスト大石芳野の写真作品は観覧者に大きな感動を与え、大好評を博した。民俗学の視点で企画した「まじないといのり」

は、学芸の調査研究を活かした展覧会で、伝統行事を通して信仰と精神文化を考える一助とした。より深く理解いただけるように列品解説やギャラリートークを7回実施し、延べ290名の参加いただいた。博物館資料の理解啓蒙、伝統文化の継承など普及教育事業の講座・教室は延べ1,080余名の参加受講いただいた。但し土曜講座の野外巡検一講だけは悪天候のため中止となった。平成14年1月開設したホームページは、年間約6,500件のアクセスがあり一定の成果があったが、収益部門（売店）での販売拡大にはあまりつながらず、次年度に期待したい。10月に東山昭子評議員が「山形県男女共同参画社会づくり功労者知事表彰」、11月に犬塚幹士副館長が「平成14年度地域文化功労者文部科学大臣表彰」、12月に旧職員、姉さま人形教室講師の太田正子氏が「鶴岡市卓越技能者表彰」を受賞、祝意を表す。1月15日には酒井忠明名誉館長が宮中歌会始めに全国唯一人の「召人」に選ばれ参代、大変な名誉とご同慶のいたり

である。 11月に長年ご尽力いただいた松田士郎(64歳)評議員が逝去された。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

最後に関係機関に一言要望しておきたい。国、時代を問わず社会情勢が悪化すると初めに文化面での諸活動が制約されたり、補助金が切られる。現在政府部内で公益法人改革の検討が進められているが、全国私立美術館会議でも問題事項であった研究論文、展覧会図録頒布など従来公益として経理してきたものが収益事業として判定されるなど税制面でも厳しくなりつつある。公益を逸脱した一部の法人をもって同一に制約を強固しようとする動きは、当財団にとっても運営維持を困難にするものと危惧する。独立採算の民法法人は国や地方自治体など公的機関によって設置された公益法人とは同一でなく、純粋な趣旨目的をもって真摯に地域文化振興、社会貢献の一翼を担おうとする地方の小さな公益法人にとって現在の改革が適正なものになるよう願うものである。

## 2. 保存管理事業 1.文化財建造物の保存管理 重要文化財

旧西田川郡役所 防災設備、電気設備の保守点検 東面北

面外壁一部ペンキ塗替 重要文化財 旧渋谷家住宅

防災設備、電気設備の保守点検 南西面屋根差茅の小修理 冬

期間の雪囲い、囲

炉裏の火たき（薫蒸）山形県文化財旧鶴岡警察署 防

災設備、電気設備の保守点検 南面北面外部ペンキ塗替 2.

名勝庭園の保存管理 名勝酒井氏庭園

除草、清掃、樹木剪定製姿刈込、防虫剤散布 雪吊り、樹木

用支柱取替修理 3.博物館資料の保存修理

軸装額装資料、古文書の補修、まくりの表装 刀剣類美術品、

庄内竿、民具の手入 考古資料の整理 4.松ヶ岡観覧施設と資

料の保存管理 「米づくり用具」収蔵庫の保守点検 施設の

運営、資料保存管理 5.その他

構内の御隠殿、収蔵庫、民具の蔵など建造物の 防災設備電

気設備の保守点検 3. 展示事業 1.常設展示

歴史資料、考古資料、民俗資料などの常設展示の一部展示

替えを行った。特にご隠殿内の

常設展示は、12月28日に全面的に展示替えを行った。2.

特別、企画展示

<p>油彩・コラージュ・オブ ジェ 小杉小二郎の世界</p>	<p>小杉小二郎（昭和19年 生れ・東京）は祖父小杉 放庵の手ほどきをうけ、 叔父デザイナーの二郎の 影響で日大芸術学部工業 デザイン科に進学、その 後画家を志して渡仏。独 特の色彩と構図の油絵や コラージュ・オブジェな ど、詩情豊かな作品40点 を展示、ギャラリートー</p>	<p>4月12日～ 5月7日</p>	<p>入 2</p>
--	---	------------------------	----------------

	クも開催し、高評を博した。		
日本名刀展シリーズ 庄内に伝わる古刀期の名刀	日本名刀展シリーズ第28回展、庄内地方に伝来している山城、大和、美濃、備前など古刀期（慶長以前）の名刀31振を展示、刀剣博物館主任学芸員小林暉昌先生のギャラリートークも開催した。	5月16日～ 5月30日	入 7
日本の染織	鎌倉時代から渡来、「金襴」「緞子」等は室町期以降茶人の鑑賞対象、茶道具、表具などに用いられ珍重愛玩された。秘蔵	6月 3日～ 6月24日	入 4

	「名物裂」70点を一堂に展観、大山雅由氏によるギャラリートークも開催した。		
郷土の近代日本画家 川村智保	明治29年鶴岡生れの川村智保は、東京美術学校に進学、結城素明に師事、戦前は東京で図画教育に携わりながら作品製作をつづけ、戦後帰郷美術教師として活躍、平成5年逝去、遺作30点を展示し好評を得た。	6月26日～ 7月10日	入 4
まじないといのりー民俗資料を中心に	江戸時代から行われてきた祭りには、先祖の御霊を祀るだけでなく、五穀	8月 1日～ 8月30日	入 1

	<p>豊穰・悪霊退散の意味も含まれた。虫おくり行事・病送り行事はじめ、現在失われつつある伝統行事の資料を通してさまざまな祈り、まじない等を紹介した。</p>		
加藤豊現代彫刻展	<p>昭和23年生まれ鶴岡出身の加藤豊は、早くから具象彫刻界の俊英として活躍、平成13年には月山湖畔に「月の女神」を制作するなど活躍、可憐な少女像など約30点の作品を展示紹介した。</p>	<p>9月 1日～ 9月24日</p>	<p>入 4</p>
大石芳野「コソボ明日へ」	<p>昭和19年生まれ東京出</p>	<p>9月26日～ 10月20日</p>	<p>入 7</p>

	<p>身の大石芳野は、フォトジャーナリストとしてアジア、中近東、東欧を中心に取材して活躍。日本写真家協会会員、日本ペンクラブ会員。平成13年女性写真家初の土門拳賞受賞。平和を祈り、 Kosovoでの戦禍の下ひたすらに生きる人々を撮影したドキュメンタリーフォト作品70点を展示。大石芳野氏のギャラリートークを開催県下から大勢が参加し好評を博した。</p>		
<p>書の魅力一懐紙と短冊</p>	<p>室町時代から江戸時代ま</p>	<p>11月 6日～ 11月25日</p>	<p>入 9</p>

	での天皇・親王・公卿の和歌懐紙短冊40点を展示し、各書流の和様書の美しさを紹介した。		
旅河華芳日本画展	明治24年鶴岡生まれの旅河華芳は京都の日本画家木島桜谷に師事、大正5年帰郷、代用教員を経、その後画業に専念。花鳥を中心に26点を展示紹介した。	12月14日～ 1月30日	入 1
藩校致道館とその儒者たち	文化2(1805)年庄内藩は、藩校致道館を創設、同12年現在地馬場町に移転、その学風は徂徠学だった。藩校致道館	2月1日～ 2月25日	入 1

	の制度、教育内容の資料、 徂徠はじめ致道館の教師 儒者の遺墨を展示紹介し た。		
鶴岡雛物語	旧庄内藩酒井家や旧家で 所蔵している江戸から近 代にかけての雛人形や雛 道具などを展観、また子 供の健やかな成長を願う 雛節句にあわせ、また節 句行事もおこなった。	3月 1日～ 4月 3日	入 6

### 3. グループ展・個展等

第33回春秋書道選抜展	4月 5日～ 4月 10日	入館者 9 38
樋渡理志絵画展	5月 9日～ 5月 14日	入館者 1,02 5
白甕社会員展	7月12日～ 7月 21日	入館者 2,88 6

第75回白土会展	7月23日～7月30日	入館者 1,608
第24回佳陽会日本画展	10月22日～10月27日	入館者 3,270
尾形美和洋画展	10月29日～11月4日	入館者 2,828
第21回田川地区高校美術展	11月27日～12月5日	入館者 1,350
第23回鶴岡書道会会員展	12月7日～12月12日	入館者 561

#### 4. 普及教育事業 1. 講演会、シンポジウム 平成15年3

月8日 東京・日本海運倶楽部 東京友の会総会

「21世紀の哲学—私の庄内と私の哲学」 講師 今道友信氏  
146名 2. 特別展企画展列品解説、ギャラリートーク

「小杉小二郎の世界」	小杉小次郎氏 対談 館長	4月13
「庄内に伝わる古刀期の名刀」	小林暉昌氏	5月18
「日本の染織」	大山雅由氏	6月15

「まじないといのり」	当館本間豊学芸員	8月18
「まじないといのり」	当館犬塚幹士副館長	8月25
「加藤豊現代彫刻展」	加藤豊氏	9月 1
「大石芳野写真展」	大石芳野氏	9月27

### 3. 講座・教室

土曜講座	「赤と黒一民俗学的考察」 「庄内地方の初期洋画について」	田中忠三 郎氏 佐藤七郎 氏	9月 10月
少年少女古典素読教室	「論語抄」	細井 功 氏 伊藤貞蔵 氏 高橋義順 氏	5月 毎月第 16回

		水野貞吉 氏 富田 弘 氏 氏家登志 雄氏 犬塚幹士 氏 酒井英一 氏	
姉様人形教室	姉様人形の制作	太田正子 氏	4月 毎月第 18回
中国古典講座	中国古典「論語」 中国古典「春秋」	酒井忠治 氏 犬塚幹士 氏	4月～ 毎月7

古典文学講座	「近代短歌鑑賞—明治期の歌」	東山昭子氏	4月～ 毎月1 催
--------	----------------	-------	-----------------

4. 出版

館報「致道 第40号」

企画特別展図録5. 館外普及教育活動

酒井忠 久	平成15年1月31日	「江戸期の藩校にみる徳育 り」  パネラー
犬塚幹 士	4月1日～平成15年3月31 日  4月1日～平成15年3月31 日  9月3日  9月28日  11月12日  平成15年1月20日	民俗資料調査  山形県祭行事調査  「鶴ヶ岡城襖絵」  「農耕屏風図について」  「極楽寺阿弥陀如来坐像」  「正月行事」  「庄内米づくり用具」  「庄内のくらしと民芸」

	3月2日 3月22日	
酒井英 一	8月18日 10月8・9・29・30日 12月8日	[岡山遺跡とまほろばの里] 「羽黒町執行坂窯跡分布調: 「羽黒町執行坂窯跡」
本間 豊	4月1日～平成15年3月31 日	藤島町文化財調査
酒井賀 世	平成15年3月1日	「人形玩具のいのちを守る」 パネラー

6. 広報活動 各種事業について、新聞・テレビ・等の報道機関に対して資料提供や取材協力依頼等に 努め、新聞広告掲載や看板ポスター等の掲示等で、またホームページでも周知をはかった。7. その他☆節句雛祭り 4月1日 於講座室  
餅つき、紙芝居、手遊び☆各流合同茶会 4月22日 於致

道博物館内 4 会場

裏千家、表千家、遠州、

大日本茶道の 4 流派合同茶会☆博物館実習 7 月 30 日～

8 月 4 日

実習生：静岡大学、大東文化大

学、盛岡大学、東京工芸大学、群馬県立女子大学から 5 名☆

ボランティア解説員 解説員は 20 名 3 月、5 月～10 月☆西

郷隆盛、菅実秀を偲ぶ会 於ご隠殿

講話 加藤 保氏「菅実秀の生涯」☆古代織を伝える会☆刀

剣鑑賞会に協力**5. 調査研究事業**☆庄内地方の歴史資料及

び一般文化財調査研究☆庄内地方の有形民俗資料調査研

究☆庄内地方の埋蔵文化財調査研究☆美術資料所在調査研

究

## 6. 友の会会員数

種別	今年 度	前年度
賛助会員	30 3	(315)

特別会員	3 1 8	(1 9 9)
普通会員	2, 0 0 1	(2, 0 5 4)
学生会員	3, 8 1 4	(3, 8 2 6)
小中生会 員	0 1 9	(4 2 5)
東京友会 会員	9 4 0	(4 4 0)
計	6, 9 4 6	(7, 2 5 9)

## 7. 平成14年新収蔵美術品寄贈

種	作者	作品	摘要
書跡	土屋竹雨	聖徳太子17条憲法（複製）	紙本・墨・軸装
絵画	服部五老	石頭城之図	紙本・墨画淡彩・軸装
書跡	服部五老	三行書	紙本・墨・軸装
絵画	大山北李	鶏図	紙本・墨画淡彩・軸装
絵画	川村智保	牡丹之図（大正10年）	絹本・着色・軸装
絵	川村智保	マンドリンを持つ女（大正11年）	絹本・着色・軸装

画			
絵画	川村智保	柘榴を持つ女（大正11年）	絹本・着色・軸装
絵画	川村智保	早春の丘（大正13年）	絹本・着色・軸装
工芸	兼主 美濃 関	脇差 銘兼主（かねきみ）	長1尺6寸9分 反4分
工芸		脇差 無銘	長1尺8寸1分 反5分
工芸		脇差 無銘	長1尺8寸 反4分5厘
工芸	月山正信	刀銘 （表）月山正信作 （裏）永正二年八月吉日	長1尺2寸8分 反8分
工芸		刀 無銘	長2尺1寸5分 反3分
工芸		茶色塗鞘打刀拵	長
工芸		朱色塗鞘半太刀拵	長
工芸		刀（錆あり銘不明）	長72.8センチ 反2.9センチ
工芸		脇差 無銘（錆あり不明）	長44.2センチ 反1.2センチ
工芸	兼氏	刀 銘 兼氏（昭和17年軍刀に替）	長64センチ 反1.5センチ

## 購入

種	作者	作品	摘要
絵画	土屋竹雨	山水図（大正13年）	紙本・墨画・軸装

財団法人 致道博物館 財務諸表

平成14年度収支計算書

平成

14年4月1日～平成15年3月31日

科目	平成14年度予 算	平成14年度決 算	科目	平 算
支出事業費	27,400 2,218	22,955 1,595	収入	
管理費	62,063 1,000	58,497 1,000	内借入金収入	
借入返済	73,084	67,584	当期収入計	
当期支出計	165,999	151,632		
当期収支差額	-10,616	89		
次期繰越収支差 額	-1,618	20,014	前期繰越収支差 額	
支出計	164,381	171,646	収入計	

貸借対照表

平成15年3月31日現在

大科目	金額	大科目	金額
流動資	22,144	流動負債	72,130

産			
固定資産	801,481	固定負債	60,624
		正味財産	690,870
		(内基 本)	(431,562 )
資産合計	823,625	負債及び 正味財産 合計	823,625

単位：千円

正味財産増減計算書

平成15年3月31日現在

科目	金額	科目	金額
資産減少額	9,417	資産増加額	5,644
負債増加額	72,570	負債減少額	69,217
正味財産減少額	81,987	正味財産増加額	74,861

当期正味財産減少額	-7,125		
前期繰越正味財産額	697,995		
期末正味財産額	690,870		

単位：千円

「計算書類に対する注記」

1. 重要な会計方針

固定資産の減価償却について

建物、設備、備品等について定額法による減価償却を実施

引当金の計上基準について

退職給与引当金は期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上資金の範囲について

資金の範囲には現金、預金、未収金、立替金、仮受金を含める。

なお前期末及び当期末残高は3.に記載の通りである。

2. 基本財産の増減及びその残高

前期期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
429,062	2,500	0	431,562

単位：千円

3. 次期繰越収支差額

	前期末残	当期末残

	高	高
流動資産	20,696	22,144
流動負債（未払消費税）	771	2,130
次期繰越収支差額	19,925	20,013

固定資産取得価格、減価償却累計額及び当期末残高

取得 額	減価償却累計 額	当期末残 高
458,147	172,601	286,932

収益部門  
貸借対照表

平成15年3月31日現在

資産の 部	金額	負債及び資 本の部	金額
流動資 産	2,780	流動負債	13,145
		資本	△10,365
		（内当期利	（-188

		益)	)
資産合 計	2,78 0	負債及び資 本合計	2,780

単位：千円

### 損益計算書

平成14年4月1日～平成15年3月31日

売上高	18,663
売上原価	13,549
営業費用	5,266
営業利益	-151
営業外損益	32
税引前当期利 益	-118
法人税等引当	70
当期利益	-188
前期繰越損失	△10,4 76

当期未处分損 失	△10,6 65
-------------	-------------

単位：千円